

沖島の漂着ゴミ回収活動(報告)

- ・実施期日 平成27年4月26日(日) 午前8時30分小田ヶ浜園地集合午後2時30分散
- ・参加人数 104名 (びわ湖トラスト54名と立正佼成会・明るい社会づくり運動滋賀50名)
- ・実施場所 沖島北西岸
- ・助成金のご支援 関西アーバン銀行
- ・ご協力 沖島漁連(漁船3隻と運行) 沖島消防団(消防艇1隻と団員10名)
近江八幡市環境課(回収ゴミの最終処分) オーパルオプテックス(救命胴衣の貸出)

当日は晴天微風の好条件、午前中の約3時間で回収作業を終え、ビニールシート・食器乾燥機・バッテリー・漁網・ルアー・タイヤ・大型看板・空き缶など燃えるゴミ20袋、燃えないゴミ13袋の他大型13個を回収、事故なく無事に活動を終わることが出来た。また、聖泉大学の中国人留学生と京大教育研究会の高校生・大学生合わせて35名の若者も作業に加わってくれた。



「漂着ゴミ」。漂着の始まりはポイ捨てと不法投棄。平成13年秋のゲリラ豪雨と呼ばれた大雨で琵琶湖の東岸へ流れ着いた大量の樹木も間伐伐採のあと放置されたもの。山に川にその川の近くの林の中に大量のゴミが放置されていることと、目を閉じて湖底にあるゴミの数々をも想像しておきたい。

そのような状況下、県民の多くが夏の一斉清掃を行っているほか、多くのNPO、企業、団体、学校が清掃活動している。「ひこね流木清掃実行委員会」「琵琶湖の環境を良くする会」「NPO法人芹川」など約35団体が滋賀県琵琶湖環境部の呼びかけでびわ湖トラストも参加し、情報の交換や時には共同作業を行う計画が今春スタートしている。



以下、学生さんたちの活動後の感想です。

『日本へ来て、ボランティアとして社会のために働く方々に感心し、自分もその中の一員になりたいと思い2年前初めて沖島の漂着ゴミ回収作業に参加し、今回が3回目になりました。いろんなボランティア活動に参加し続けたいと思っています』滋賀大学大学院教育学専攻1回生 王俊娜さん。『このボランティア活動に参加して、ゴミ拾いのような小さいことでも多くの人々が熱意をもって活動すれば、自然環境を守る大きな力になります。将来、自分の母国に帰ったとき、この活動で得た経験をPRし、自分の国の環境保護に寄与したいと思いました。』聖泉大学人間学部、経営学専攻3回生、張苗苗さん。京大教育研究会田村慶太さん(大阪市立大学)『自然現象による流木から明らかに不法投棄されたものまでゴミは様々あることを昨年の参加で知りましたが、<誰も見ていないから><みんなやっているから>など人間の小さな甘えが大きな問題の原因になっていると感じます。このような人間の行為の結果は人間に帰ってくると一人ひとりがもっと意識していかなければならないと思います。そのためには、まず一度このような清掃活動に参加して現状を知ることがスタートになると思います。そして私たち参加者は少しでも多くの人に現状を知ってもらうために発信していくことがこの活動の大きな目的なのかと感じました。貴重な経験でした。また、参加させていただきたいです。』他に小宮丈典さん(同志社大学)高松祐一郎さん(京都大学)からも感想が寄せられました。ありがとうございました。(理事 小川)

